

メディカルスタッフが取り組む

難病診療分野別拠点病院の活動

1) ◎佐野 真矢 2) 中野 敬太 1) 蛭澤 直美

1) 札幌医科大学附属病院 看護部

2) 札幌医科大学附属病院 薬剤部

JDDW COI 開示

発表者名: 1)◎佐野真矢 2)中野敬太 1)蛭澤直美
所属機関名: 1)札幌医科大学附属病院 看護部
2)札幌医科大学附属病院 薬剤部

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業等はありません。



病院紹介



北海道公立大学法人

札幌医科大学附属病院

1932年 開院

診療科 30診療科

病床数 922床

(一般病床890床 精神病床32床)

- 高度な医療を提供する特定機能病院
- 専門外来や先進医療の充実
- 教育・研究の拠点としての役割

- ◆ 2019年10月
炎症性腸疾患に関する
難病診療分野別拠点病院に指定
- ◆ 2024年8月
炎症性腸疾患センター設立



難病診療分野別拠点病院の役割

1. IBD患者さんに対する地域医療の格差をなくすことを目指す。
2. 道内家庭医と専門医療機関との連携強化を図り、できるだけ多くのIBD患者さんがかかりつけ医での診療を受けていただくシステムを構築する。いわゆる病診連携の強化を図る。
3. IBD治療に関わる専門医の育成、Medical Staff (看護師・薬剤師・栄養士)の教育に取り組む。
4. 最新の治療に関する情報を道内医療従事者ならびに患者さんに伝える。

北海道におけるIBD医療の現状

- 各地域にIBDに精通した医師やメディカルスタッフが少ないため、
遠方の患者さんが基幹病院まで通院しなければならず、
十分な治療を受けることが難しい状況。



道内IBDネットワークの確立を目指す



道内IBDネットワークの確立に向けた取り組み

道内各施設における 他職種（多職種）との連携 他施設との連携

1. 道内各地の中核病院の設定、連携の強化
2. 各施設内での多職種の連携をはかり、それをもとにした教育的資料の作成、各地域でのMedical Staff教育の推進
3. 遠隔医療の確立



道内IBDネットワークの確立に向けた取り組み

道内各施設における 他職種（多職種）との連携
他施設との連携

炎症性腸疾患分野WEB研修会の開催

2. 各施設内での多職種の連携をはかり、それをもとにした教育的資料の作成、各地域でのMedical Staff教育の推進
3. 遠隔医療の確立

難病診療分野別拠点病院としての取り組み

炎症性腸疾患分野WEB研修会

当院関連施設及び北海道内難病医療協力病院など35施設にWEB配信案内している

難病診療分野別拠点病院(IBD)
札幌医科大学附属病院



北海道大学病院

旭川医科大学病院

連携

札幌厚生病院

札幌徳洲会病院

札幌東徳洲会病院

難病診療分野別拠点病院としての取り組み

炎症性腸疾患分野WEB研修会

◆ 演者は拠点病院や連携病院の医師やメディカルスタッフが担当

※医師担当 ※薬剤師担当 ※看護師担当 ※栄養士担当

●第1回（2021/1/29）

1. 「IBDに関する難病診療分野別拠点病院の役割とは」 ※

2. 「IBD治療に投与する薬剤の説明」 ※

●第2回（2021/3/10）

1. 「IBDに関する難病診療分野別拠点病院における看護師の役割」 ※

2. 「炎症性腸疾患の栄養管理の重要性」 ※

●第3回（2021/6/9）

1. 「指定難病申請のコツ（潰瘍性大腸炎編）」 ※

2. 「IBD治療に関する薬剤 2 ～寛解導入に用いる薬剤 ステロイド・カルシニューリン阻害剤～」 ※

●第4回（2021/9/2）

1. 「IBDの遠隔連携診療について ～ほっかいどうIBDネットワーク構想と実運用～」 ※

2. 「IBD長期入院患者のセルフケア指導 ～多職種連携を活かして～」 ※

●第5回（2021/12/2）

1. レクチャー「患者中心医療の実現にむけたIBDチームアプローチ

～患者の知識や性格などに配慮した関わり方を中心に～」 ※

2. ディスカッション

テーマ「多職種連携について」～患者中心医療の実現に向けた取り組み～



難病診療分野別拠点病院としての取り組み

炎症性腸疾患分野WEB研修会

※医師担当 ※薬剤師担当 ※看護師担当 ※栄養士担当

●第6回（2022/7/28）

1. 「IBD治療に関する薬剤3 分子標的薬～生物学的製剤と低分子化合物～」 ※
2. 「炎症性腸疾患患者の栄養指導の実際 ～症例をふまえて～」 ※

●第7回（2022/12/15）

1. レクチャー「IBD多職種連携についての実践的な取り組みについて」 ※
2. ディスカッション
テーマ「多職種連携の実践的な取り組み～入院患者教育プログラムを作ろう！～」

●第8回（2023/11/22）

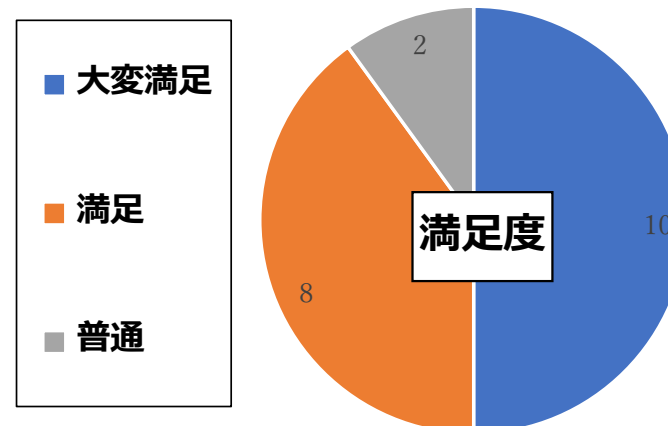
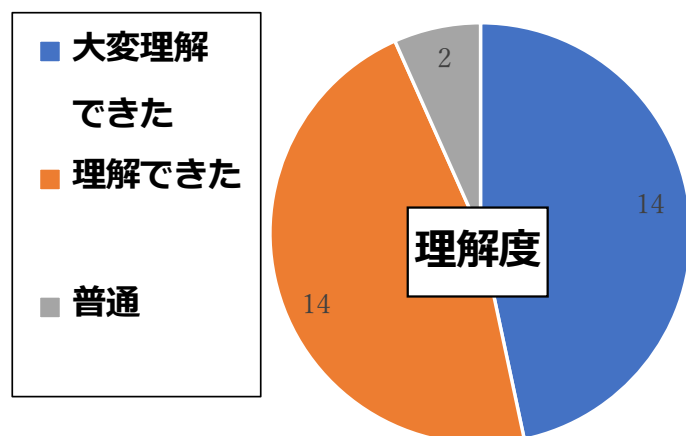
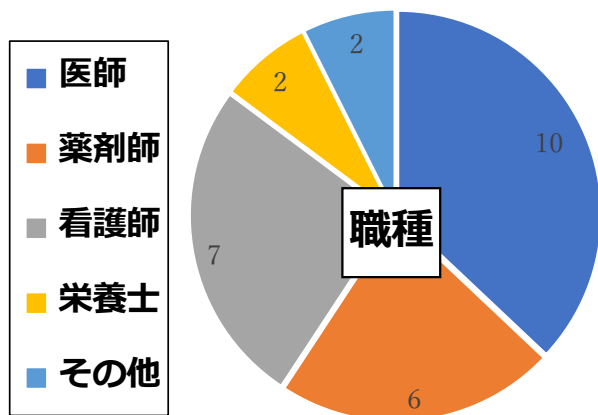
1. 「炎症性腸疾患患者の栄養指導の実際 ～症例をふまえて～」 再配信※
2. 「前回ディスカッション内容の確認」 ※

●第9回（2023/12/14）

1. レクチャー「IBD多職種連携についての実践的な取り組みについて」 ※
2. ディスカッション
テーマ「多職種連携の実践的な取り組み～入院患者教育プログラムを作ろう！Part2～」

難病診療分野別拠点病院としての取り組み

炎症性腸疾患分野WEB研修会 「各回平均参加者内訳・アンケート結果」



難病診療分野別拠点病院としての取り組み

■ 炎症性腸疾患分野WEB研修会「アンケート結果：感想・要望（抜粋）」

- 他施設の体勢を含め知ることができ、また、意見を聞くことができ、今後の介入に役立てていきたいと感じました。
- IBD患者さんへの関わり方がわからない薬剤師が多いように普段感じています。IBD治療薬に関する知識や「食後でなくても内服できる」ということを敢えて説明するというアプローチの仕方等を共有することで、薬剤師がもっとIBD患者へ積極的に関わることができるようではないかと感じました。先生方お忙しい中ありがとうございました。
- 治療(栄養指導)で難渋した症例の紹介や検討について知りたい。



難病診療分野別拠点病院としての取り組み

炎症性腸疾患分野WEB研修会 「今後の課題」

1. 地域医療格差の解消

- ・ 地域ネットワークの構築

2. 教育プログラムの開発と実施

- ・ オンラインリソースやeラーニングを活用した環境整備の検討

3. 啓蒙活動の強化

- ・ 都市部の参加率が高く、地方の参加率が低い
- ・ 啓蒙方法の検討

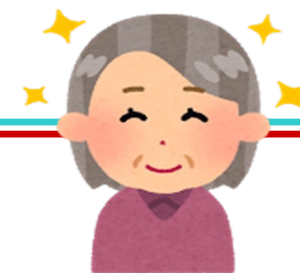
4. 継続的な教育活動

- ・ 年3-4回定期的な開催



難病診療分野別拠点病院 看護師の活動

- 2020年から 日本難病看護学会認定の難病看護師として活動
- 院内消化器内科病棟看護師向けの学習会の企画・運営・教育資料の作成
- 日本難病看護学会で2022年、2023年症例報告
- JSIBDで2023年パネルディスカッションで症例報告
- 月刊誌「難病と在宅ケア」へ投稿
- 日本難病看護学会WEB研修：難治性炎症性腸管障害療養者への難病看護実践—活動報告（2024年3月）
- 北海道のIBD患者のQOLアンケート調査（調査中）
北海道のIBD医療に携わる看護師のアンケート調査（調査検討中）



➤ 日本難病看護学会で2022年症例報告

演題名「パーキンソン病既往の分類不能腸炎（IBDU）患者への多職種連携による実践」
患者情報：

- **A氏**：60歳代、女性
- **診断**：分類不能腸炎
- **治療**：様々な薬剤を使用
- **経過**：症状コントロールが難渋していたが、多職種と連携し様々なアプローチを行ったところ約1年かかり症状はコントロールされた。

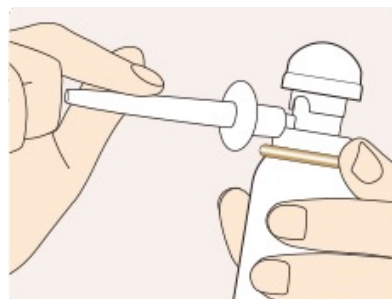
セルフケア指導：外用剤の注腸フォーム剤の注入指導

- **問題点**：外用薬の注腸フォーム剤の注入ポンプが巧緻動作緩慢・握力低下のため使用できない。
- **解決策**：看護師が理学療法士に相談し、注腸用補助器具を作成。それにより手技確立できた。

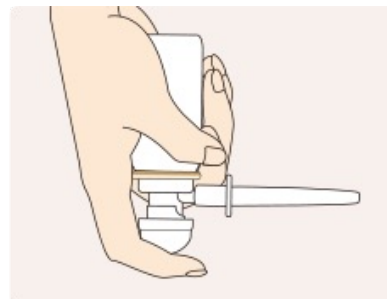
レクタブル®の使用法



- ① 必要に応じて
ワセリンなどの潤滑剤じゅんかつじを塗る



- ② 容器を持ち、真下に向ける



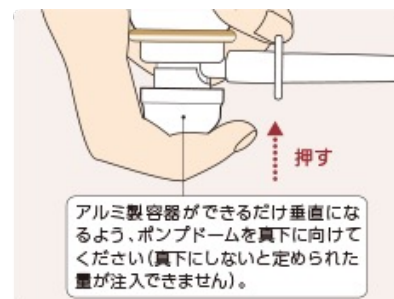
- ③ 片足をイスや洋式トイレに
のせ、上半身を少し前に倒す



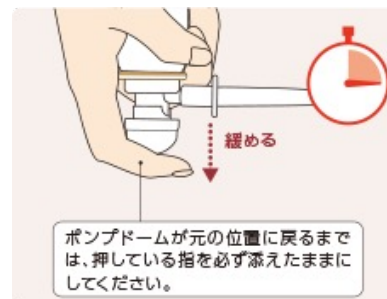
- ④ 肛門にアプリケーターを挿入



- ⑤ ポンプドームを
押したまま約2秒待つ



- ⑥ 押している指の力を
すっと緩め、約15秒待つ



- ⑦ アプリケーターを引き抜く



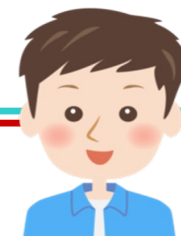
EAファーマのホームページより転載





ここにノズルが付きます

難病診療分野別拠点病院 看護師の活動



➤ 日本難病看護学会で2023年症例報告

演題名「クローン病患者の治療選択に関する多職種連携による意思決定支援の検討」
患者情報:

- **B氏:** 20歳代、男性
- **診断:** クローン病
- **経過:** クローン病再燃によるイレウスと診断され、イレウス管留置で症状は改善されたが、新規薬剤による治療は拒否。その後もイレウスやサブイレウスなどで**約1年間に7回入退院した**。入院の度に病状による身体的、精神的な苦痛が強い状況あった初回入院時に、将来や病状への不安から自らカウンセリングを希望され神経精神科介入。入院の度にカウンセリングを継続。過去に薬物療法の副作用で苦しんだ経験があり、新たな治療よりも、対症療法を望んでいた。B氏の思いやニーズに合わせて、看護師が調整役となり多職種と連携し協働した。
多職種との情報共有、連携によりB氏の意志決定支援を行った。

多職種連携により新たな治療の決定という行動変容につながった。



難病診療分野別拠点病院 薬剤師の活動

第1回近隣薬局薬剤師向けIBD勉強会

今回のテーマ
IBDの基本治療薬の5-ASAについて取り上げたいと思います。

日時：2023年9月14日(木) 18:30～（30分から1時間程度）

Zoomによるオンライン開催
ミーティングID: 945 8269 7728
パスコード: 036168

① 18:30～18:45

「5-ASAについて」

演者：札幌医科大学附属病院 薬剤部
中野 敬太

② 18:45～19:00

「5-ASA 不耐について」

演者：札幌医科大学医学部 消化器内科学講座
風間 友江 先生

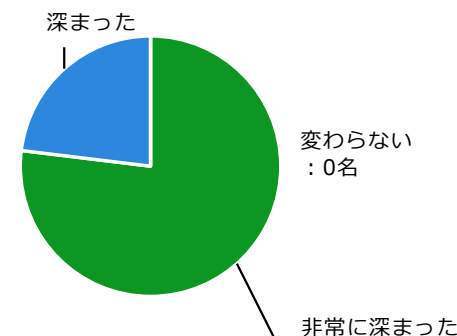
質疑応答：19:00～

※実際に作成した案内状の一部

- 開催形式はZoomによるオンライン開催とした。
- 薬剤師からIBD治療薬に関する基本的な使用方法、注意点などについての講義を行った後、医師から症例を交えての使用実態について講義を行った。

結果

Q.今回の勉強会を通じてIBDの薬物治療に関する知識が深まったか



難病診療分野別拠点病院 MSの今後の取り組み

- 地域医療を支えるための多職種連携の質の向上に向けて
 - 地域医療との連携
 - 個別化されたケアプランの作成
 - 多職種連携の強化
 - 患者教育の充実
 - 心理的サポートの提供
 - フィードバック収集と改善